

# 2026年度 駒澤大学大学院 9月 入学試験問題及び解答例

研究科・専攻 【グローバル・メディア研究科 グローバル・メディア専攻 修士課程】
試験科目 【 専門試験 メディア研究一般 】

## 【出題意図】

修士課程での研究活動において必要な、メディア研究に関する論理的思考力、研究に必要な想像力、および論理的記述能力を問う。

問題 次の文章を読み以下の問題に答えなさい。

生成 AI のビジネスへの利活用の一環として、AI プログラミング補助ツール「GitHub Copilot」の導入に踏み切る企業が増えている。ファッション EC サイト「ZOZOTOWN」を運営する ZOZO もその一つで、2023 年 5 月に法人向けサービスである「GitHub Copilot Business」を全社導入した。

ZOZO には約 500 人のエンジニアが所属しており、その全員が GitHub Copilot Business を利用できるようにした。一方で、AI ツールの全社導入に当たっては、セキュリティや費用対効果など、検討すべき点も多い。ZOZO ではどのような検討の結果導入に至ったか、同社のテックリードを務める堀江亮介さん（技術本部技術戦略部 CTO ブロック）が公開している外部向け資料からひもとく。

全社導入を進める際、ZOZO では「セキュリティ上の懸念」「ライセンス侵害のリスク」「導入による費用対効果」の 3 つの課題として挙げていたという。

セキュリティについては、具体的に「生成したプロダクトのコードが AI 学習に使われることによる社外への流出」「提案されたコードへの脆弱性の混入」という 2 つの課題があった。前者については、GitHub Copilot Business が「プロダクトのコードは GitHub Copilot の学習に使用されない」と定めているため、回避できた。脆弱性の混入については、GitHub Copilot に組み込まれた脆弱性防止システムを利用。これは AI ベースのコードチェック機能で、これによりある程度は混入を防止できる。しかし、これだけでは脆弱性が混入するリスクは 0 とはいえないため、第三者によるコードレビューを必ず実施するような仕組みを敷いたという。

次にライセンス侵害のリスクについてだ。これは、GitHub Copilot が使用する米 OpenAI の Codex モデルの学習データが抱えるリスクになる。この学習データには、GitHub 上で公開されている OSS のソースコードも含まれているため、AI が生成したコードをそのまま利用した場合、知らず知らずのうちにライセンス違反を問われるリスクがあるのだ。この問題に ZOZO は、GitHub Copilot の設定画面にある「Suggestions matching public code」という項目をブロックすることで対策しているという。これをブロックすることで、GitHub 上で公開中の OSS のソースコードと一致するものをブロックできるため、ライセンス侵害のリスクの低減を期待できる。また GitHub Copilot Business では、組織全体でこの設定を強制することが可能という。

この対策を講じた上でもライセンス侵害が問題になった場合、第三者からの賠償請求に対して米 GitHub から無制限の補償を受けられる契約も結んでいるという。ただし、契約内容によって補償内容が異なる可能性があるため、導入を検討する他の企業に対しては、それぞれ GitHub に確認することを推奨している。

最後に、GitHub Copilot の全社導入による費用対効果についてだ。GitHub Copilot の全社導入によって、技術部門の開発効率の向上を期待していたが、実際に全社導入するためには、GitHub Copilot の導入に具体的にどのくらいのコストメリットがあることを社内で実際に示す必要があった。

ZOZO では、費用対効果を見積もるために 2 週間の試験導入を実施。専用 Slack チャンネルの立ち上げや、社内アンケートなどで使った感想などを集め、具体的なコスト削減金額を算出した。そうやって実際の開発業務でどの程度

コスト削減できたかを可視化することで、全社導入にコストメリットがあると確認し、全社導入を決める判断に

# 2026年度 駒澤大学大学院 9月 入学試験問題及び解答例

役立てた。

こうして3つの課題への解決策を示し、GitHub Copilotの全社導入を実現させたZOZO。全社導入から約8カ月後の1月に、社内アンケートを取ったところ、利用者の89.4%が「GitHub Copilotを使用することでより生産的になった」と回答。具体的には、76.2%の人が「作業時間を15分以上節約できた」と回答した(図1)。

特に反復作業をより迅速に行えるようになったという声が多く、89.5%がそのように答えたという。他にも「より早くタスクを完了できた」や「検索にかかる時間が短縮できた」などの声も多かった。

また、精神的な負担やコーディング時のイライラの軽減や仕事の充実感の向上などの効果も見られ「より満足度の高い仕事へ集中できる」との声もあったという。他にも「フロー状態(集中力がとても高まった状態)に入りやすい」との回答が41.7%あり、同社は「開発者の『満足度と幸福度』『効率とフロー』に、GitHub Copilotが良い影響を与えている」と結論付けた。

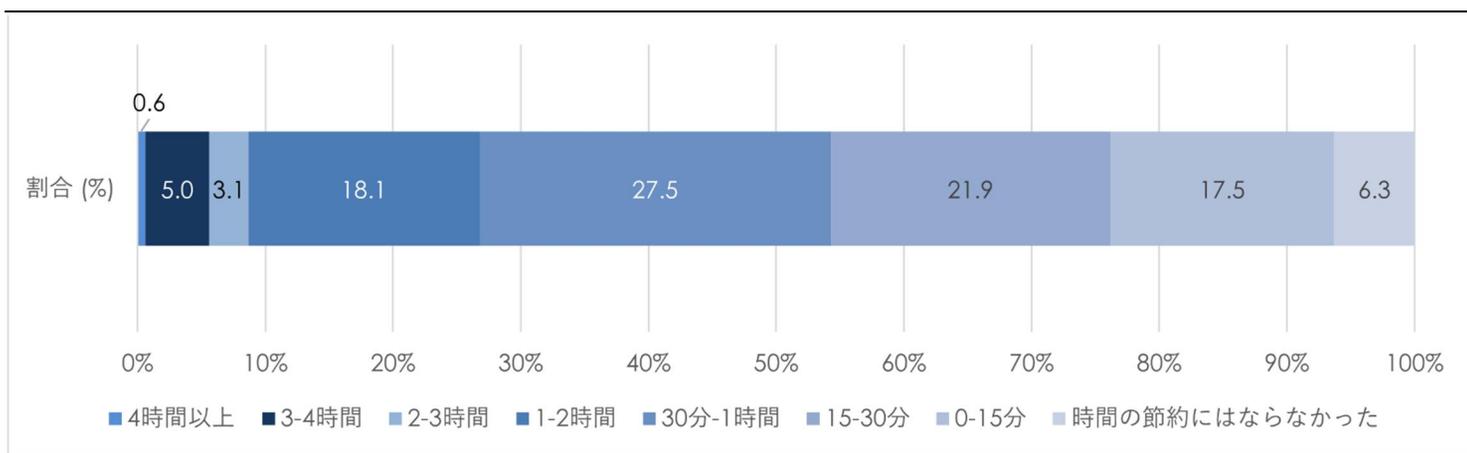


図1: 導入後の効果: 1日あたり節約できた時間

一方、全社導入したことで見えてきた課題もあるという。ZOZOはこれについて「GitHub Copilotの効果を向上させるには『習熟』が必要であると分かった」と説明する。

社内のある部署では、部内組織を横断したGitHub Copilotの勉強会を開催し知見の共有を継続的に行ってきたという。社内アンケートでは、これらの部署ではGitHub Copilotによる効果が高く出ている。

このことから「より効果的にGitHub Copilotを活用するには、一部の部署だけではなく、全社的に活用方法の知見を共有し、その活用方法に習熟していくのが重要だと考えている」とZOZOはまとめている。

(「GitHub Copilot全社導入」の前にたちはだかった3つの壁 ZOZOはどう乗り越えたか、「ITメディア」より)

1) この記事中の会社は、生成AIを会社で導入するにあたり、どのような問題をどのように解決したか要約せよ。

## 【解答例】

この記事中の会社であるZOZOでは、生成AIを導入するにあたり、主に①セキュリティ上の懸念、②ライセンス侵害のリスク、③費用対効果、という三つの問題を検討し、それぞれに対策を講じた。

まず①セキュリティ面では、生成したプロダクトのコードがAI学習に利用され社外流出する懸念や、脆弱性が混入するリスクが問題となった。前者については、GitHub Copilot Businessでは自社コードが学習に使われない仕様であることを確認し解消した。後者については、Copilotに備わる脆弱性防止機能を活用するとともに、必ず第三者によるコードレビューを行う体制を整えることでリスクを低減した。

次に②ライセンス侵害のリスクについては、OSSコードを学習したAIが生成したコードが既存の公開コードと一致

# 2026 年度 駒澤大学大学院 9 月 入学試験問題及び解答例

する可能性を問題とした。これに対し、公開 OSS と一致する提案をブロックする設定を全社で強制し、さらに万一訴訟が発生した場合に備えて GitHub から補償を受けられる契約を結ぶことで対応した。

最後に③費用対効果については、2 週間の試験導入を行い、アンケートや利用状況の分析を通じて開発時間の短縮などの効果を数値化し、コスト削減の見込みを社内を示した。その結果、生産性向上が確認できたため全社導入を決定した。

このように ZOZO は、リスクを制度・技術・運用の各面から管理し、効果を実証することで、生成 AI の全社導入を実現した。

2) 記事中の会社は、社内アンケートにより、作業時間を何分以上節約できたかを問い、それによって組織としての意思決定を行った。記事では、「76.2%の人が作業時間を 15 分以上節約できた」と要約しているが、図 1 を参照すると、多様な意見がある。なぜ記事ではこのように要約しているか、説明せよ。

## 【解答例】

「GitHubCopilot」を利用することにより記事中の会社の社員がどの程度作業時間を節約できるかについては、社員それぞれのスキルレベルや業務内容により当然多様性があるが、ここでは 15 分以上の作業時間節約を「意味のある生産性向上」としての簡易な指標として扱い、多様な回答を 15 分以下 (6.3%+17.5%) と以上 (100% - (6.3%+17.5%)) に二分することで、読者にわかりやすい基準を示している。

3) 生成 AI は、文書・画像・プログラム等様々なものを生成可能である。今後、人類とどのように共存すべきか、技術的・法律的・経済的等、様々な視点から、学際的に論ぜよ。

## 【解答のポイント】

今日の社会全体の問題である生成 AI について基本的な知識を持ち、これに基づいて自分なりの意見を論理的に記述していること。

# 2026年度 駒澤大学大学院 9月 入学試験問題及び解答例

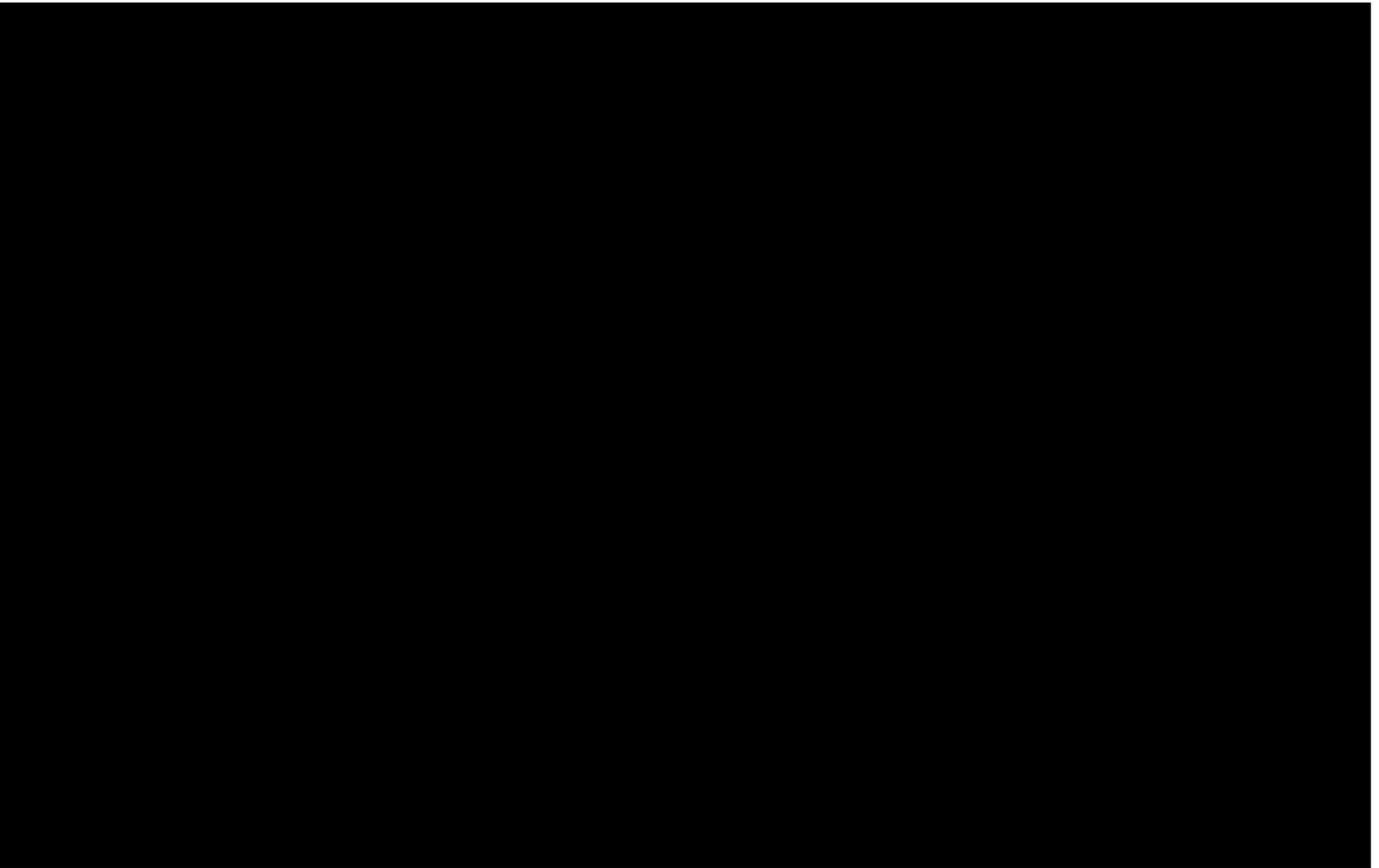
研究科・専攻 【グローバル・メディア研究科 グローバル・メディア専攻 修士課程】
試験科目 【 外国語試験 英語 】

## 【出題意図】

英文の正確な読解力と、深刻な社会問題について英語で議論する能力を問う

この試験では、英文に関する2つの Question (Question I～Question II)に答えていただきます。問題指示文をよく読み、すべて解答してください。

*Read the following passage.*



[Adapted from: “Amazon boss tells staff AI means their jobs are at risk in coming years” by Dan Milmo, The Guardian, June 18, 2025. <https://www.theguardian.com/technology/2025/jun/18/amazon-boss-tells-staff-ai-means-their-jobs-are-at-risk-in-coming-years>]





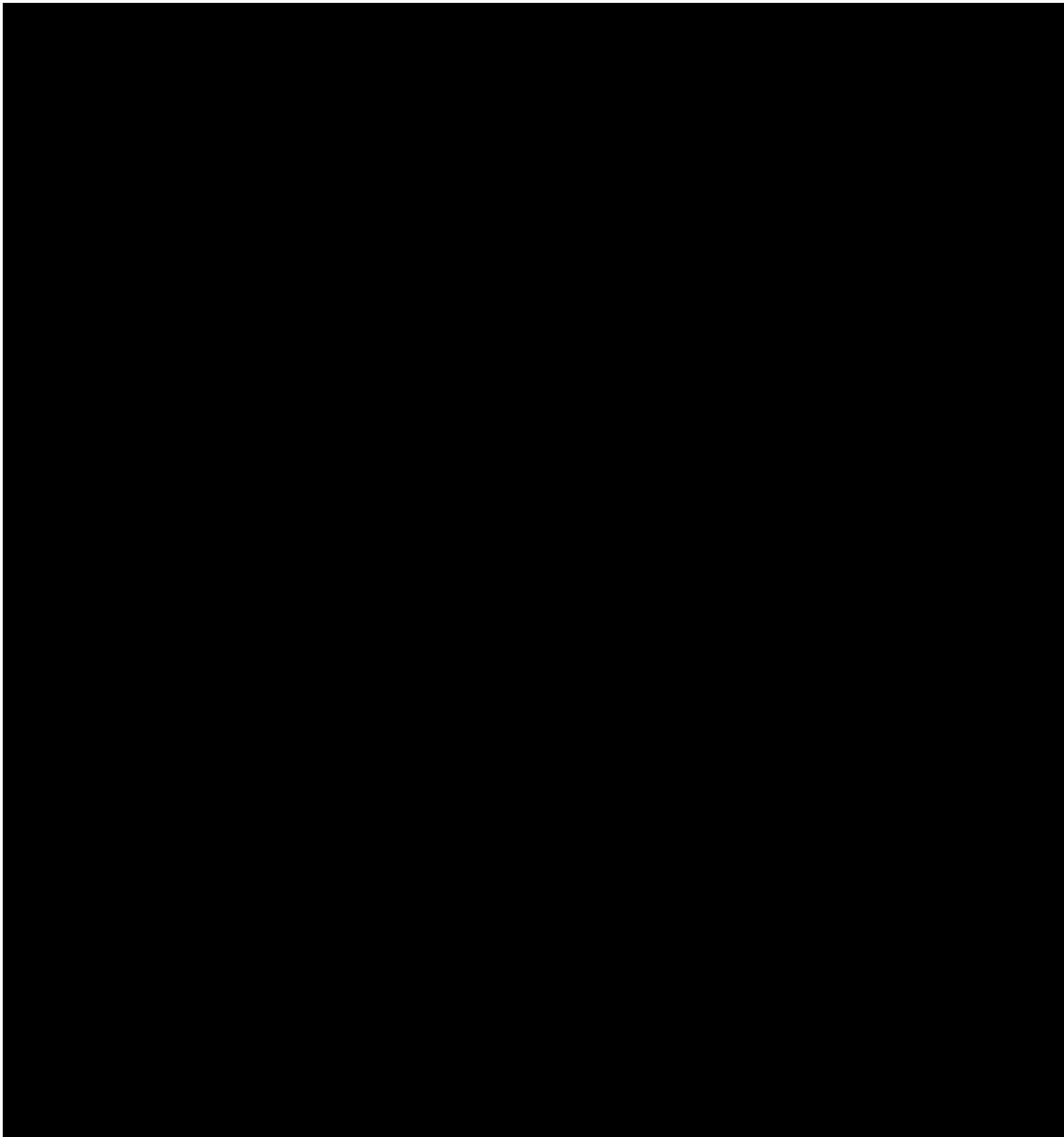
# 2026年度 駒澤大学大学院 9月 入学試験問題及び解答例

研究科・専攻 【グローバル・メディア研究科 グローバル・メディア専攻 修士課程】
試験科目 【メディア研究一般（小論文）（社会人特別）】

## 【出題意図】

修士課程での研究活動において必要な、メディア研究に関する論理的思考力、研究に必要な想像力、および論理的記述能力を問う。

問題 次の文章を読み以下の問題に答えなさい。



# 2026 年度 駒澤大学大学院 9 月 入学試験問題及び解答例

---

(「GitHub Copilot 全社導入」の前にたちはだかった3つの壁 ZOZOはどう乗り越えたか、「ITメディア」より)

---

---

1) この記事中の会社は、生成 AI を会社で導入するにあたり、どのような問題をどのように解決したか要約せよ。

---

**【解答例】**

この記事中の会社である ZOZO では、生成 AI を導入するにあたり、主に①セキュリティ上の懸念、②ライセンス侵害のリスク、③費用対効果、という三つの問題を検討し、それぞれに対策を講じた。

まず①セキュリティ面では、生成したプロダクトのコードが AI 学習に利用され社外流出する懸念や、脆弱性が混入するリスクが問題となった。前者については、GitHubCopilotBusiness では自社コードが学習に使われない仕様であることを確認し解消した。後者については、Copilot に備わる脆弱性防止機能を活用するとともに、必ず第三者によるコードレビューを行う体制を整えることでリスクを低減した。

---

次に②ライセンス侵害のリスクについては、OSS コードを学習した AI が生成したコードが既存の公開コードと一致

# 2026 年度 駒澤大学大学院 9 月 入学試験問題及び解答例

2) 記事中の会社は、社内アンケートにより、作業時間を何分以上節約できたかを問い、それによって組織としての意思決定を行った。記事では、「76.2%の人が作業時間を 15 分以上節約できた」と要約しているが、図 1 を参照すると、多様な意見がある。なぜ記事ではこのように要約しているか、説明せよ。

## 【解答例】

3) 生成 AI は、文書・画像・プログラム等様々なものを生成可能である。今後、人類とどのように共存すべきか、技術的・法律的・経済的等、様々な視点から、学際的に論ぜよ。

## 【解答のポイント】

今日の社会全体の問題である生成 AI について基本的な知識を持ち、これに基づいて自分なりの意見を論理的に記述していること。

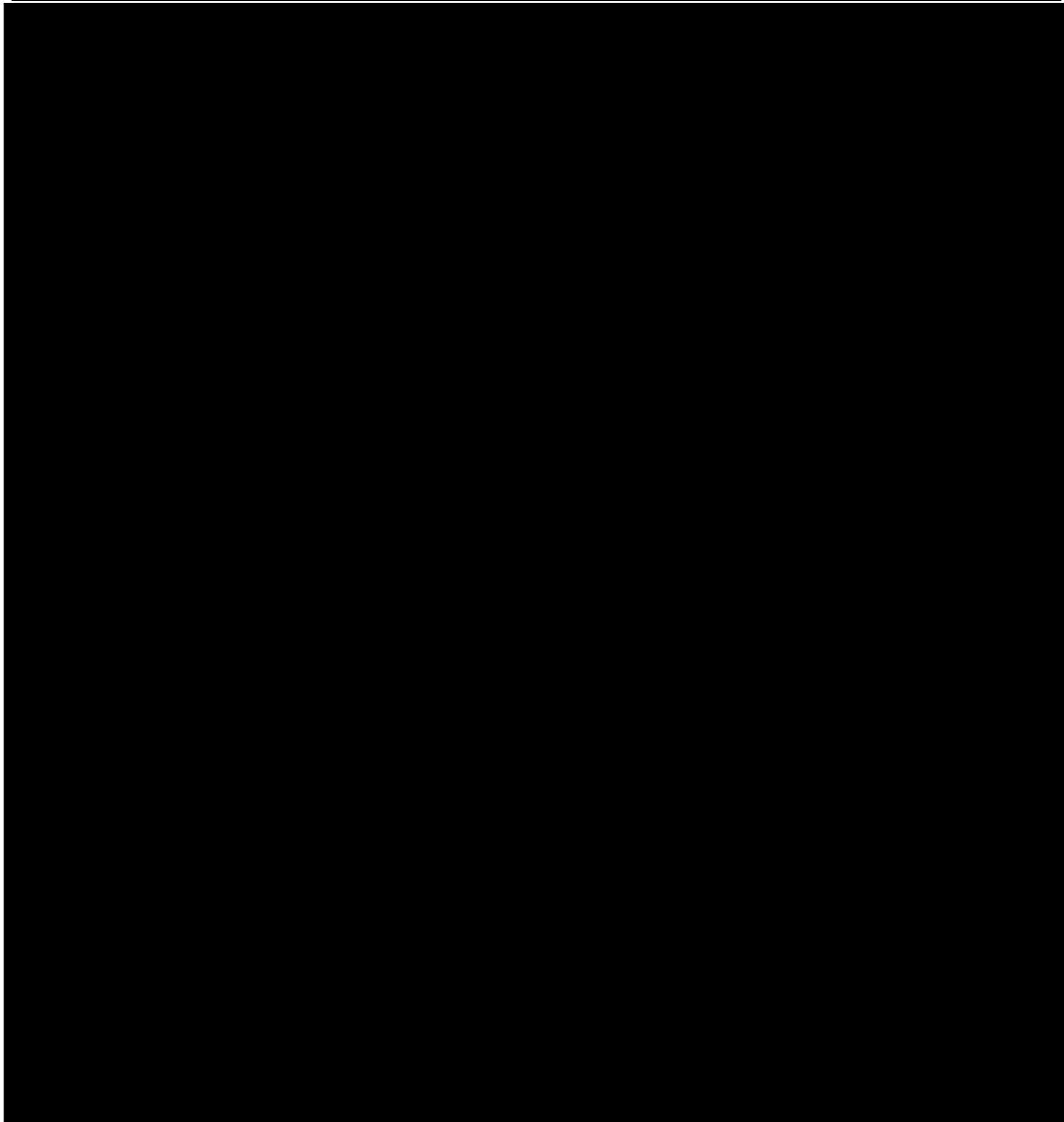
# 2026年度 駒澤大学大学院 9月 入学試験問題及び解答例

研究科・専攻
【グローバル・メディア研究科 グローバル・メディア専攻 修士課程】
試験科目
【 専門試験 メディア研究一般 外国人留学生 】

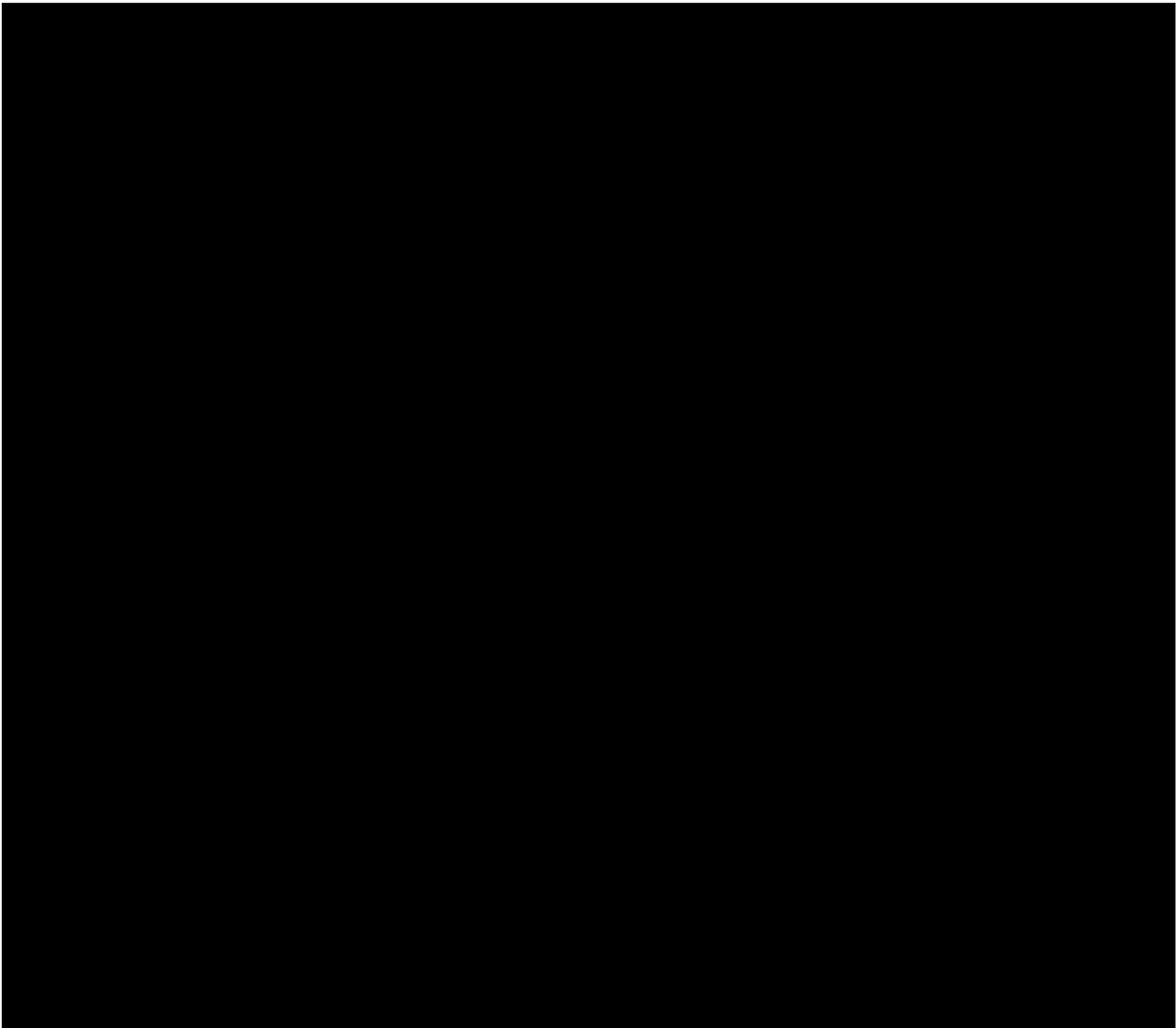
## 【出題意図】

修士課程での研究活動において必要なメディア研究に関する論理的思考力、研究に必要な想像力、および留学生なりの日本語による論理的記述能力を問う。

問題 次の文章を読み以下の問題に答えなさい。



2026 年度 駒澤大学大学院 9 月 入学試験問題及び解答例



---

(「GitHub Copilot 全社導入」の前にたちはだかった 3 つの壁 ZOZO はどう乗り越えたか、「IT メディア」より)

---

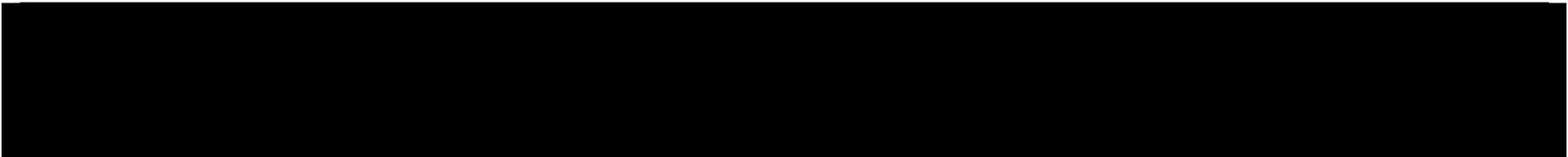
1) 上記の①から④の下線部の語句の読みをひらがなで答えよ。

【正答】①けねん, ②ぜいじゃくせい, ③はんぷく, ④ちけん

---

2) 下線部 (ア) 「ライセンス侵害」について、本文で述べられているもの以外の実例を一つ挙げなさい。

【解答例】



---

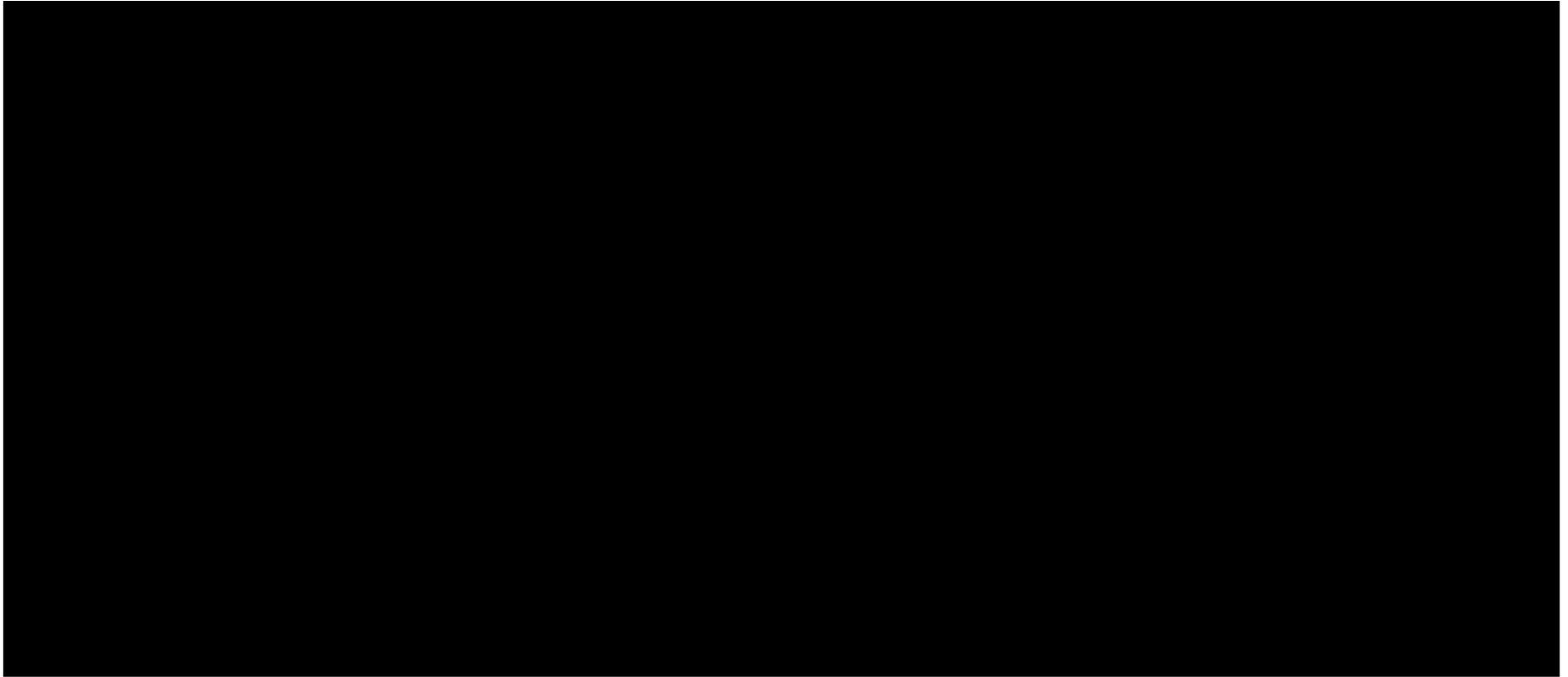
---

---

# 2026 年度 駒澤大学大学院 9 月 入学試験問題及び解答例

3) この記事中の会社は、生成 AI を会社で導入するにあたり、どのような問題をどのように解決したか要約せよ。

【解答例】

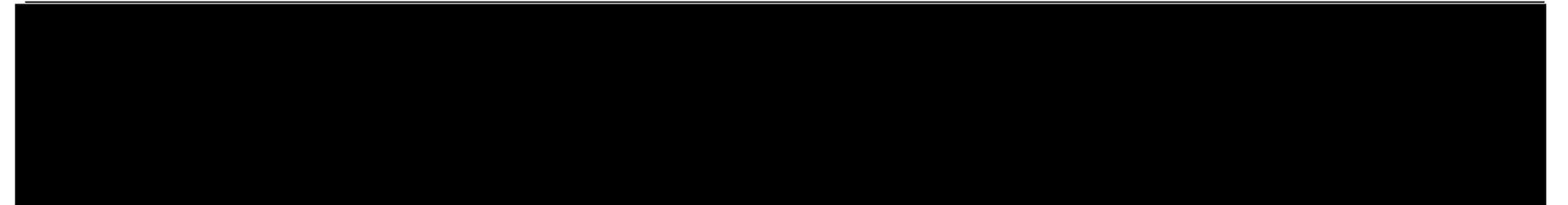


4)



なぜ記事ではこのように要約しているか、説明せよ。

【解答例】



5) 生成 AI は、文書・画像・プログラム等様々なものを生成可能である。今後、人類とどのように共存すべきか、技術的・法律的・経済的等学際的に、自分の意見を述べよ。

【解答のポイント】

今日の社会全体の問題である生成 AI について基本的な知識を持ち、これに基づいて自分なりの意見を論理的に記述していること。

